



ふくおか[Good]農業人100

主な農産物／茶(煎茶・玉露)、しいたけ

栗原 昭夫さん (33歳)

(営農地／八女市矢部村、上陽町、黒木町)

歴史を受け継ぎ、地域を守る

《就農のきっかけ》

先祖が守ってきたものを受け継ぎ、育てたい

地元八女農業高校を卒業後、静岡にあるお茶の仕上加工機械メーカー等で働き、「特に何かしたいわけでもなくフラフラしていた。」という栗原さん。21歳の時、病気で入院しました。これまでの自分を振り返り、「このままじゃいかん。自分の足場を、職を固めなければ」と考えたそうです。子供の頃から農作業の手伝いをさせられてきたので、農業は嫌いだったのですが、「じいちゃんが博多のお茶屋の丁稚奉公で暖簾分けしてもらって独立。戦後矢部村に戻り、商売を始め、お茶も栽培して広げ、茶工場まで持っている。先祖が守ってきたものを受け継ぎ、大きく育てたい。」と意思を固め、病床からそのまま家に電話したそうです。当時、大学に行っていた兄が継ぐことが決まっていたのですが、その強い意思が伝わったのか、家族は就農に賛成してくれたそうです。

《これまでの過程》

大規模化から品質重視へ

「オヤジの手伝いから入った。何もわからないまま、栽培も製茶も言われるとおりに作業していった。ただ、何種類もある製茶機械から茶葉を取り出すタイミングは、なぜか上手くできた。子供の頃に手伝っていた時の手触りを覚えていたのかな。」と就農当時を振り返る栗原さん。大学から戻ってきたお兄さんとは、自然と作るどころ(生産)は自分、仕上と販売は兄という分担ができ、当初目標の大規模化に向かって少しずつ経営面積を増やしてきました。しかし、茶市場の価格下落が止まらなくなってきた5年程前「今の市場には山のお茶に対する評価がない。うちは、じいさんの時から自園・自製・自販。自分は山の茶の良さを勝負したい。しっかり山でお茶を作って付加価値をつけて売っていききたい。」と考えが変わったそうです。「ネット通販もあるけど、ほんの一部。昔からのお客さんの電話、FAX注文がほとんど。山のお茶で魅了し続けたい。」と品質本位を熱く語ってくれました。



プロフィール

■家族構成／本人、妻、子ども3人 ■前職／機械製造業
■営農年数／約12年 ■従業員数／4名(臨時)
■耕作(経営)面積／茶3.0ha、しいたけ2,000本 ■販路／直販

《これからの展望》

文化と農村環境を守っていききたい

「費用もかかる、手もかかるから止めたくなる。でも玉露を作り続けていこうと思う。」1年だけ作れなかったとき、ひどく寂しい思いをしたという伝統本玉露づくり。文化継承への思いも、ひとしおです。また、「スマイルファームの代表をしてるんですよ。」と栗原さん。スマイルファームとは、耕作放棄されようとする農地を借り受けて耕作する、矢部村青年部主体の農業組織。「今は水稲を1ha作っている。3年目だけど、共同作業、共同経営は難しい。その上、お茶と作業がまるっきりかぶるし(笑)。米に限らず矢部村の若者で地域の農業を確立させたい。農地という環境を守り、ムラを守っていききたい。もちろん、そのためには収益を上げられることが前提ですけどね。」と、これからの夢を語ってくれました。



Good 成功のためのポイント

『なせばなる、なさねばならぬ何事も』不安はいろいろあるだろうけど、とにかく一歩踏み出して、とりあえずやってみること。やってみないと何も始まらない。